

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演 題 **EichnerB4** 症例に対し、コーヌスクローネ及び アタッチメントデンチャーで対応し、7年経過した症例

演 者 関 喜英

日 付 2014年10月28日

keywords

1. EichnerB4
2. コーヌスクローネ
3. アタッチメントデンチャー

【抄録】

患者は初診が2006年で、70歳の女性であった。2003年に他歯科医院で部分床義歯にて修復治療をしていたが、カリエスと歯周病の進行が見られ全顎的な再治療が必要な状態で来院した。

比較的短期間での治療介入であった為、プラークコントロールと歯周治療を徹底して行い、**EichnerB4** に分類される欠損に、上顎をコーヌスクローネ、下顎をアタッチメントデンチャーで補綴しメンテナンスへと移行した。

その後、上顎は良好に経過したが、下顎は3年弱で鉤歯の歯根が破折、さらにその2年後にその隣接歯の歯冠が破折という短期間でのトラブルに見舞われた。治療時点では気づいていなかった評価点や、反省点など多々あると思われませんが先生方に今後の展望も含め、良きアドバイスを頂ければ幸いです。